

## 8 「こころのケアチーム」の活動状況

### 【活動の概要】

- ・管内では、3月19日より「こころのケアチーム」の活動が始まった。活動当初は主に大人の精神科医療チームが活動していたが、3月31日に、北海道札幌市が児童精神科医中心のチームを派遣したことから、「大人のこころのケアチーム」と「子どものこころのケアチーム」の2グループに分けて活動を行った。

### 【大人のこころのケアチーム】

- 1) 活動内容：個別相談，研修・集団教育，専門職へのスーパーバイズ
- 2) 活動期間：平成23年3月19日～平成24年3月16日
- 3) 活動場所（施設）：市内避難所，仮設住宅，個人宅，消防署，福祉施設，市役所，各総合支所
- 4) 活動人員：延べ1,908人（延べ165チーム）
- 5) 活動団体：東京多摩総合医療センター，愛知県，北海道，札幌市，福岡県，山梨県，長野県，奈良県，岡山県，熊本大学，東北大学，東京女子医科大学，高知大学，浜松医科大学，富山大学，自治医科大学，日下部記念病院

#### （1）個別相談について

- ・個別相談は、①本人からの申し出，②支援者から勧められての相談，③支援者のコンサルテーションの3つのパターンが挙げられる。
- ・避難所を巡回して診療，相談に応じてきたが，一部，避難所の住民に知られにくいということから近くの公共施設を使った相談も行った。
- ・相談ケースで多かったのは，不眠，睡眠障害で，次いで，不安，イライラ，怒り，アルコール問題である。
- ・②について，支援者には避難所スタッフと自宅や仮設住宅を巡回していたスタッフがおり，特に，巡回していたスタッフには，派遣の保健師チームやD-MAT等の医療チーム等多数に及ぶため，それぞれの会議でこころのケアチームの活動について紹介し，『こころのケアチームつなげ票』を活用してもらうことで派遣調整をスムーズにやすくした。

#### （2）支援者の心のケアについて

- ・発災1ヵ月を目処に行政職員や消防職員，病院職員，施設職員の心のケアに焦点を当てた援助を行った。
- ・行政職員については，当圏域の県職員と市職員を対象に行っている。県職員については，気仙沼管内にある保健福祉事務所を除いたすべての公所で，職員全員のIES-R尺度によるスクリーニングを行った。その結果，支援の必要性がある対象者については，「こころのケアチーム」が継続してフォローし，地元の専門病院につないでいる。

- ・気仙沼市役所と本吉総合支所では、実施方法が異なるが、メンタルヘルス相談を実施した。市役所職員は、人事課を通してメンタルヘルス相談を周知し、希望者に相談を実施した。本吉総合支所では、支所保健師の声掛けにより職員全員にメンタルヘルス相談を実施した。
- ・消防職員については、人事担当係を通して、消防署員と消防団員のすべてを対象に同様のスクリーニングを行った。
- ・施設職員については、障害者施設と介護施設を中心に声掛けを行い、希望があった機関については全職員に実施した。
- ・南三陸町においては、町保健師と一緒に各サテライトを巡回し、生活支援員の活動上の悩みを把握、相談する機会を定期的に設けたことで、生活支援員個々のサポートと支援員との連携に戸惑っていた町保健師のサポートという二重の支援につながった。

### (3) 啓発、講演会について

- ・対象は、避難住民、支援スタッフ、施設や市役所職員。メンタルヘルスの基本から職員に対する心のケアまでの研修を行ってきた。
- ・研修の場所について、仮設住宅を利用する場合や、支援者の場合、公的施設を使用して行った。
- ・大島地区では、「こころの健康だより」を作成し島内全戸に配布したことで、相談機関の周知と心の健康の啓発普及につながった。
- ・お茶会の企画、運営は、仮設住宅内のコミュニティづくりと心のケアにつながった。

### (4) 地域精神保健活動へのスーパーバイズ

- ・気仙沼市大島地区、南三陸町の地域精神保健活動の活動方針や運営方法等についてスーパーバイザーとしての活動を行った。

### 【子どものこころのケアチームについて】

- 1) 活動内容：個別相談、研修、専門職へのスーパーバイズ
  - 2) 活動期間：平成23年3月31日～9月2日
  - 3) 活動場所（施設）：市内避難所や幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、児童養護施設等約100施設
  - 4) 活動人員：延べ181人（延べ11チーム）
  - 5) 活動団体：北海道、札幌市
- ・基本的に東部児童相談所気仙沼支所の心理職がコーディネートを行った。
  - ・個別相談については、保護者や児童福祉施設職員、教育関係者からの相談が中心であった。
  - ・研修会については、教育関係者や保護者を対象とした研修を中心に組んだ。

## 気仙沼保健所管内における心のケアチームの活動状況

※平成24年3月19日現在の状況

### ○心のケアチーム

＜気仙沼市＞

チーム名	活動期間	担当地域	活動内容	備考
愛知県	3月19日～ 10月29日	気仙沼市 (気仙沼地区・階上地区・面瀬地区・新月地区)	巡回支援, 支援者支援, 講演会	・8月までは毎週活動。 9月から隔週。
北海道	3月22日～ 9月2日	気仙沼市 (鹿折地区・唐桑地区)	巡回支援, 支援者支援, 講演会	・6月までは毎週活動。 7月から隔週。 ・5月末まで, 札幌市の子どもこころのケアチームと共に2チーム体制で支援。6月からは, 1チーム体制で支援を行った。(大人のこころのケアチームと子どもこころのケアチームが1週間交代で活動していた。)
福岡県	3月28日～ 4月28日	気仙沼市 (本吉地区)	巡回支援, 支援者支援, 講演会	・気仙沼市本吉総合支所の保健師が活動をコーディネートした。
大学連合	3月20日～ 5月30日	気仙沼市 (面瀬地区・松岩地区)	巡回支援, 支援者支援	・東北大学を中心とした, 東京女子医大, 高知大, 浜松医大, 富山大の連合チーム。 ・4月末まで不定期に入っていたが, 5月は東京女子医大のみが隔週の週末に活動を行っていた。 ・気仙沼市立病院のスタッフに対する相談会を隔週で開催。
チーム名	活動期間	担当地域	活動内容	備考
自治医科大	3月29日～ 6月30日	気仙沼市 (松岩地区)	巡回支援, 支援者支援	・週2日。5月中旬より隔週になった。 ・光ヶ丘保養園(被災した精神科病院)の支援

				に入った。
山梨県	4月3日～ 9月29日	気仙沼市 (本吉地区)	巡回支援, 支援者支援, 講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月末まで, 支援者支援を中心に活動を行う。</li> <li>・5月以降, 本吉地区を中心に活動。</li> <li>・6月からは日下部記念病院単独で支援。</li> </ul>
長野県	5月9日～ 翌3月16日	気仙沼市 (大島地区等)	巡回支援, 支援者支援, 講演会, スーパーバイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月より諏訪湖畔病院のみ月1回大島地区を支援している。</li> </ul>
奈良県	6月14日～ 6月17日, 7月4日～ 9月28日	気仙沼市 (本吉地区中心に 全域を支援)	巡回支援, 支援者支援, 講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に周知・講演活動を行った。</li> </ul>

<南三陸町>

チーム名	活動期間	担当地域	活動内容	備考
岡山県	3月17日～ 翌3月9日	南三陸町	巡回支援, 支援者支援, 講演会, スーパーバイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月より岡山県精神保健福祉センターが月1回活動。</li> </ul>
熊本大学	3月21日～ 5月14日	南三陸町	巡回支援, 支援者支援, 講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南三陸町から登米市に避難していた住民を支援していた。</li> </ul>

○子どもの心のケアチーム

チーム名	活動期間	担当地域	活動内容	備考
札幌市	3月31日～ 9月2日	気仙沼市 南三陸町	巡回支援, 支援者支援, 講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東部児童相談所気仙沼支所職員が活動をコーディネート。</li> </ul>

【活動内容について】

- ・巡回支援は, 避難所で診療・相談室を設けた支援, 仮設住宅や在宅に対する訪問支援を行ったもの。
- ・講演会は, 住民や支援者に対する啓発・普及(仮設住宅での勉強会や施設への研修会等)を行ったもの。
- ・支援者支援は, 支援者自身のこころのケアについて相談を受けたもの。支援者のこころのケアでは, I E S - R等のスクリーニング用紙を用いた。
- ・スーパーバイズは, 行政に対して精神保健活動の活動方針や運営方法等についてスーパーバイザーとしての活動を行ったもの。
- ・その他, 活動期間, 活動内容の詳細は備考に記載する。